「いのち」への想いをつなげる映画上映会

夜明け前の子どもたち

2025年9月28日（日） 13:00−15:30 （12:30開場）

西日本で最初に開設された重症心身障害児施設、びわこ学園。
手探りの療養から始まったなか、職員自身も葛藤しながらも
医療と教育の両面から子どもたちに働きかけます。

入場無料

場所：さざなみタウン（長浜市高田町12-34）

JR長浜駅より徒歩20分/バスや車でお越しの場合　詳しくは →→

【お申込み】びわこ学園後援会ホームページ内のフォームまたはお電話（裏面に掲載）

後援：長浜市・長浜市教育委員会・社会福祉法人長浜市社会福祉協議会
京都女子大学発達教育学部
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会・公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会

主催：社会福祉法人びわこ学園・びわこ学園後援会

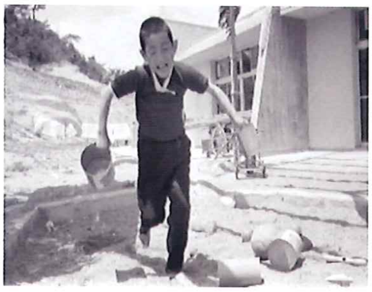
～この子ら、この人たちの「感じる世界、意欲する世界」を！～

今から約60年前の1967（昭和42）年、西日本で最初の重症心身障害児施設びわこ学園にカメラが入りました。当時その療育も分からなかったとき、この子らの生きる姿を記録しました。カメラは日々の生活や試行錯誤の活動のなかでこの子らの「感じる世界、意欲する世界」を発見していきます。

初めて他児と関わるミツイ君、揺さぶりの中で笑みをみせるシモちゃん、石を運ばない「石運び」学習のナベちゃん、ベッキ君、・・・。

重症心身障害児施設はできたものの、療育条件は貧しく、職員も苦悩し葛藤しました。しかし、この「感じる世界、意欲する世界」との共感は周りの大人を励まし、「この子らも人間だ！」「この子らも発達する」という実感を深くしていきます。

約60年前の古いドキュメンタリー映画ですが、この「感じる世界、意欲する世界」を発見していく過程はいまも輝いています。そこに「モノ言わぬ」この子ら、この人たちがせいいっぱい「いのち」を主張し、その重さを伝えているからです。9年前の2016（平成28）年に神奈川でやまゆり園事件が起こりました。そこに優生思想があることが明らかになりました。今、この「夜明け前の子どもたち」の映画を通して、私たちに何を訴えかけているのか、それを感じ取っていただくきっかけになれば幸いです。



糸賀一雄（滋賀県立近江学園園長 びわこ学園創設者 「この子らを世の光に」を提唱。1968年講演中に倒れ死去「夜明け前の子どもたち」を監修）「この子どもたちの基本的人権を守るとりくみが、療育の現場ではどのように追求されていこうとしているのかを知っていただき、こんごの方向を多くのかたがたに考えていただきたいという願いで、この映画を作成しました。」

柳澤寿男（「夜明け前の子どもたち」監督）　「私たちがカメラを持って参加しようとした行為－闘いとは、『すべての人間の発達の権利を獲得する闘い』といえるでしょう。それはとても、むずかしい問題のようにみえます。けれども実は、びわこ学園の子どもたち、看護婦さんや保母さんたち、先生方の『日々の暮し』のなかに、大きな流れとなって展開されているのです。」

※おことわり　文中の表現は、当時のまま掲載しています。

びわこ学園・びわこ学園後援会

社会福祉法人びわこ学園（初代園長 岡崎英彦）は現在、草津と野洲で入所施設・病院（入院・外来）を運営し、大津、長浜等県内で、通所施設、訪問事業（看護・介護）、相談支援、グループホーム等の事業を展開し、主に重度・重症の障がいのある人たちの医療、福祉、療育、居宅支援、相談等を行っています。
びわこ学園後援会はびわこ学園の事業を応援し、それを通して障がい者理解の啓発等を行っています。

↑びわこ学園が長浜市小堀町で運営している、
【左】通所施設〈えがお〉と相談支援〈てくてく〉、【右】長浜診療所

びわこ学園後援会事務局
〒520-2321　滋賀県野洲市北桜978-2　びわこ学園医療福祉センター野洲内
電話　077-587-1144（センター野洲）